

酒皰・赤ら顔の漢方治療



渡辺 奈津 先生

医療法人あすなろ会 わたなべ皮膚科・形成外科

1987年 神戸大学医学部 卒業

同 年 京都大学医学部附属病院 形成外科 入局

倉敷中央病院勤務などを経て

1992年 大阪府八尾市に「わたなべ皮膚科・形成外科」を開業

はじめに

酒皰は元来、30～50歳以降に好発する疾患であり、西洋医学的な治療法には軟膏などによる局所療法、全身療法、外科の治療などがあるが、有効な治療法は確立されていない。近年は、比較的若年層に多発する傾向があり、その原因として間違った肌の手入れ、過剰なニキビ治療やステロイド外用剤の多用などが考えられる。また、皮膚疾患は外面的な問題だけでなく、ホルモンバランスなどの内面的な問題にも対処する必要がある。

西洋医学的な標準治療で難渋する症例に漢方薬が有効な場合がある。酒皰への漢方医学的アプローチを尋常性痤瘡の漢方治療に準じて「浅めの炎症」と「瘀血の治療」の2本立てで考え、治療を行っている(図1)。

図1 酒皰への漢方医学的アプローチ

- 毛細血管の拡張 → 漢方医学でいう細絡(瘀血)
 - 紅色に輝く丘疹 → 慢性持続性の炎症(熱証)
 - 瘢痕を残さない → 表皮から真皮の浅いところで上記2タイプが順次、または交互、同時に起こる。
- 尋常性痤瘡の漢方治療に準じて「浅めの炎症」と「瘀血の治療」を考える。

していた。複数の医療機関に通院し、尋常性痤瘡、顔脂漏性湿疹、アトピー性皮膚炎などと診断され、痤瘡外用剤、ステロイド剤、タクロリムス軟膏などを使用したか、さらに悪化するため当院を受診した。

漢方医学的所見：脈証は細、弦、舌証は瘀血著明、舌下静脈怒張、紫舌、白膩苔。

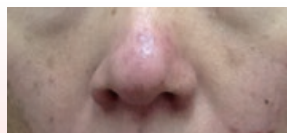
現 症：便秘、月経は順調、月経痛、月経前悪化、冷えはなし。

治 療：十味敗毒湯(EKT-6)18錠/日(分2)と通導散2.5g/就寝前を処方した。

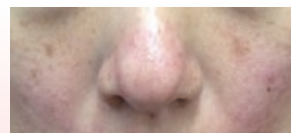
経 過：2週間後、軟便傾向だが服用は継続した。1ヵ月後に赤みはかなり軽減した。3ヵ月後、軟便傾向が続いたため通導散を桂枝茯苓丸加薏苡仁 5.0/日(分2)に変方し、その後は桂枝茯苓丸加薏苡仁のみ継続中である(図2)。

図2 症例1 42歳 女性

初診時



12週後



症例 1

症 例：42歳、女性。

現病歴：10年以上前から、顔面に吹き出物や赤みが出現

症例 2

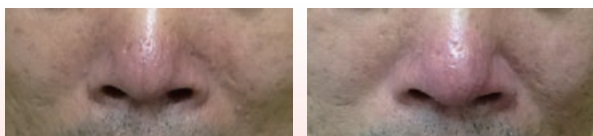
症 例：52歳、男性。

現病歴：15年来、鼻の赤みが気になっていたが、さらに

図3 症例2 52歳 男性

初診時

12週後



増悪するため当院を受診した。過去の治療歴はない。

漢方医学的所見：脈証は滑、舌証は紫舌、黄膩苔（強）。かなりタバコを吸うが、飲酒はさほどではない。肥満傾向でメタボ症状がある。

治療：十味敗毒湯（EKT-6）18錠/日（分2）、温清飲（KB-57）6.0g/日（分2）、黄連解毒湯（EKT-15）5錠/日（分1）を処方した。

経過：1ヵ月後に赤みがかなり消失した。2ヵ月後には毛細血管の怒張が残存するため、Vビームレーザーを併用した。漢方薬の服用は継続し、3ヵ月後には毛細血管の怒張などかなり症状が改善した（図3）。

症例3

症例：24歳、女性。

現病歴：約5年前から顔に赤みが出現した。月経前にはブツブツが出ることもあり、他院にて痤瘡と診断され、外用薬を約3年間使用した。その後かゆみ、赤みが拡大したため、ステロイドの外用薬を処方されたが、さらに赤みが拡大したため当院を受診した。

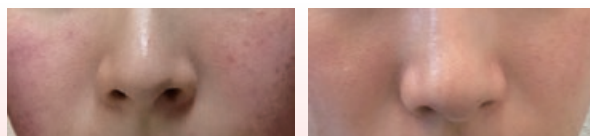
漢方医学的所見：脈証は細、沈。舌証は薄で、血虚を表していた。

現症：疲れやすい、冷え性。月経不順や月経前増悪、

図4 症例3 24歳 女性

初診時

1.5年後



月経痛もあり、むくみも起こしやすい。

治療：血虚と瘀血の治療を考え、当帰芍薬散（KB-23）6.0g/日（分2）と桂枝茯苓丸加薏苡仁 5.0g/日（分2）を処方した。

経過：1ヵ月後、赤みは少し改善したが、2ヵ月後に膿疱が急に出現したため、桂枝茯苓丸加薏苡仁を十味敗毒湯（EKT-6）18錠/日（分2）に変方した。3ヵ月後には膿疱はかなり軽減し、1年半後の現在は良好な状態である（図4）。

まとめ

酒皰の漢方治療について、基本パターンは十味敗毒湯と桂枝茯苓丸加薏苡仁の合方であり、患者の状態に応じてアレンジすることで治療を行っている（図5）。

図5 酒皰の漢方治療

Ⅰ 基本パターン

十味敗毒湯＋桂枝茯苓丸加薏苡仁

Ⅱ アレンジとして

1. 十味敗毒湯の代わりに他の清熱解毒剤
例) 清上防風湯、排膿散及湯など
例) 温清飲、黄連解毒湯
2. 桂枝茯苓丸加薏苡仁の代わりに、または追加として駆瘀血剤
例) 桃核承気湯、通導散など
(最初は桂枝茯苓丸から始めてもよい)

Discussion

木村：十味敗毒湯は錠剤を使用されていますが、その理由を教えてください。

渡辺：「錠剤の方が飲みやすい」と好評で、比較的継続服用していただきやすい印象があります。さらに、十味敗毒湯エキス製剤には桜皮含有製剤と樅欖含有製剤の2種類がありますが、酒皰に対しては、エストロゲン様作用を有する桜皮が配合された十味敗毒湯錠（EKT-6）に手ごたえを感じています。

木村：酒皰治療の基本パターンをご提示いただきましたが、胃腸の弱い患者さんの場合はどのようにアプローチされますか。

渡辺：岡村先生と同様に、まず脾虚の治療をしてから次に進むという、2段階の治療を考えます。